

学校ミニだより



第29号
令和元年10月30日
東京都立中野特別支援学校長 山賀出穂

だいじょうぶ

朝、玄関で児童を迎えようとあわただしく走っていたマスクをした先生が、「ごほっ」とせきをしました。その場にいた小学部低学年の児童は、「だいじょうぶ」と声をかけていました。

私は、優しいおもいやりといいやりとりだったことを担任に伝えました。担任は、「そのやりとりの時に相手が『だいじょうぶですよ』と答えると、その児童は、『よかった』と言えるのですよ。」と教えてくれました。

「だいじょうぶ」と相手を思いやる言葉をかけることだけでもとても素晴らしいのに、「よかった」まで言われたら、相手はどんなにうれしいことでしょうか。私なら、「うるっ」ときてしまいます。

あわただしい朝の一瞬のことでしたが、とても素晴らしいことでしたので、紹介しました。(山賀)

